

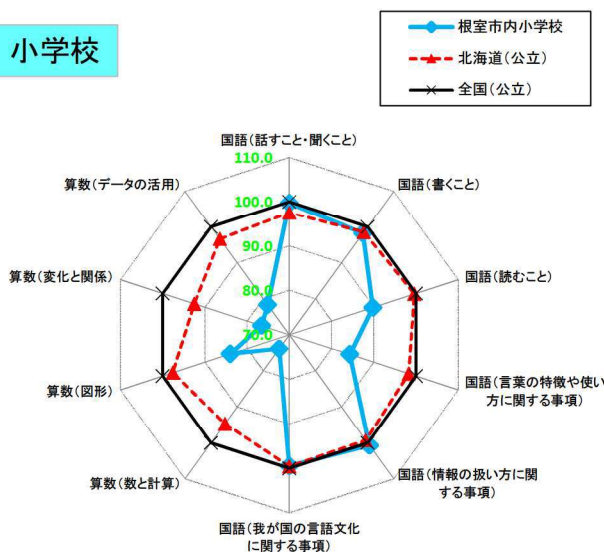
■根室市内の状況及び学力向上策（小学校数:8校、児童数:128人）（中学校数:6校、生徒数:138人）

【教科全体の状況】

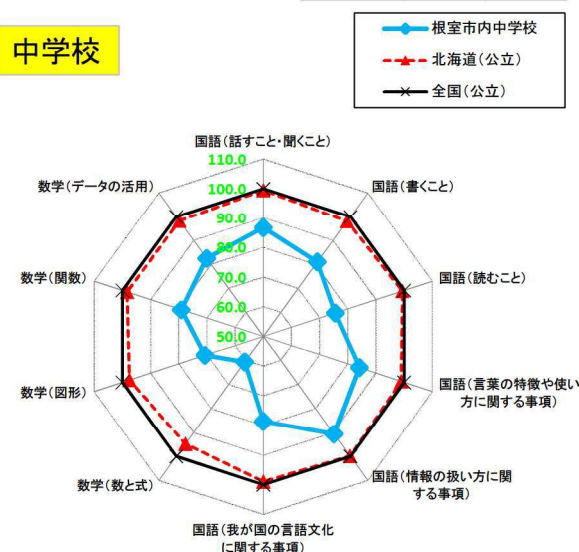
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	48
算数・数学	50	38

小学校

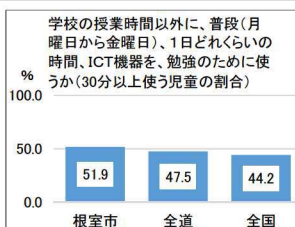
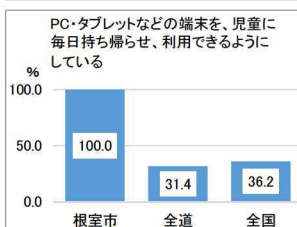
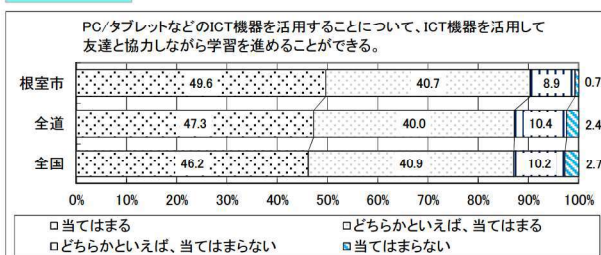


中学校

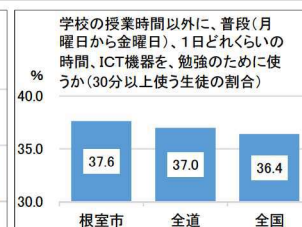
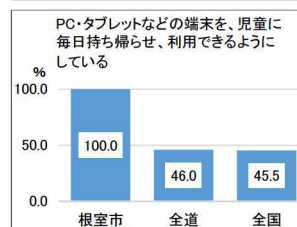
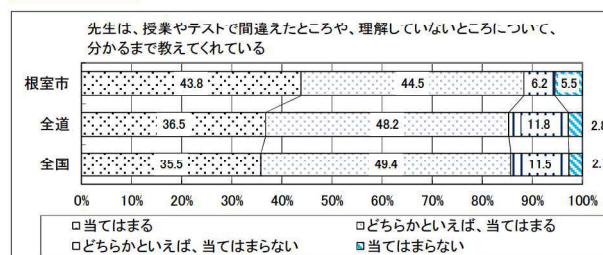


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

「学力向上プロジェクト推進会議」や北海道教育委員会が行う学力向上に係る事業等を活用した指導方法の工夫・改善を進めたことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、ICT機器を活用して友達と協力しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学校でも家庭でもICT機器を活用して学びを深める体制を整備し、児童が1人1台端末を毎日持ち帰り、家庭学習で利用できるようにしたことにより、学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、ICT機器を勉強のために1日あたり30分以上使うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

市独自加配等を活用したきめ細かな学習指導を行ったことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

学校でも家庭でもICT機器を活用して学びを深める体制を整備し、生徒が1人1台端末を毎日持ち帰り、家庭学習で利用できるようにしたことにより、学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、ICT機器を勉強のために1日あたり30分以上使うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【根室市の学力向上策】

- ◎ 管理職・教諭・教育委員会で組織する「学力向上プロジェクト推進会議」等による指導方法の工夫・充実
- ◎ 市独自加配等を活用した子どもを主語としたきめ細かな学習指導の実施
- ◎ 学校でも家庭でもICT機器を活用して学びを深める体制整備

【Webページ】



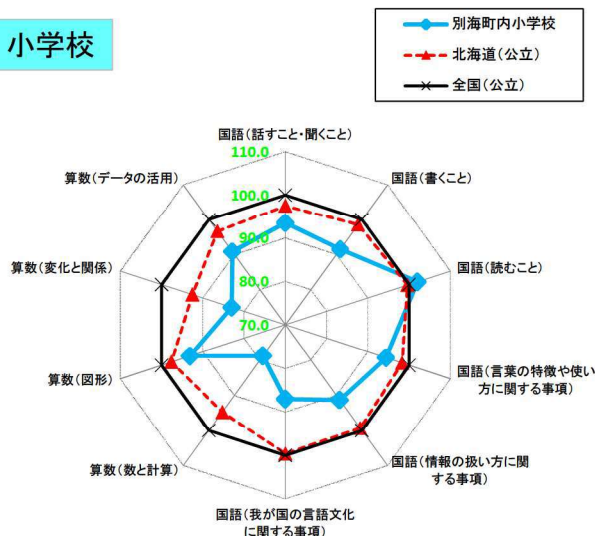
■別海町内の状況及び学力向上策（小学校数:8校、児童数:111人）（中学校数:8校、生徒数:142人）

【教科全体の状況】

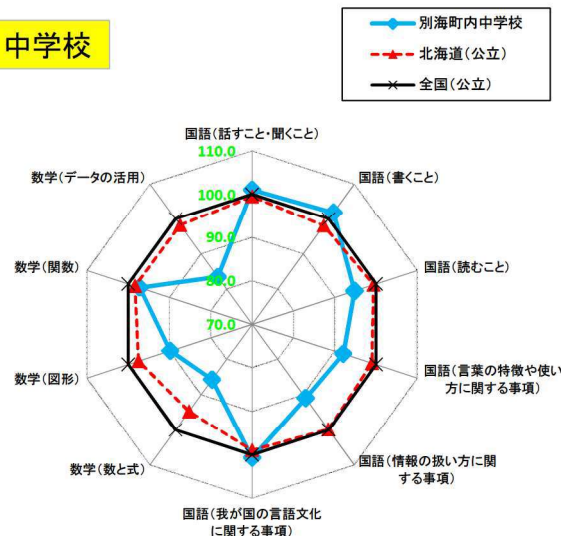
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	56
算数・数学	55	47

小学校

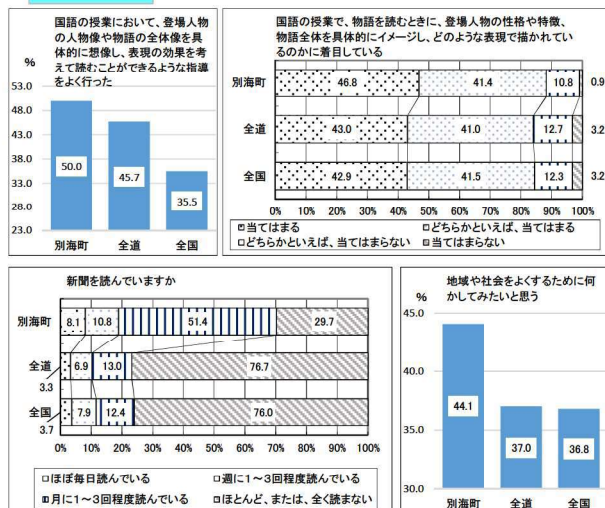


中学校

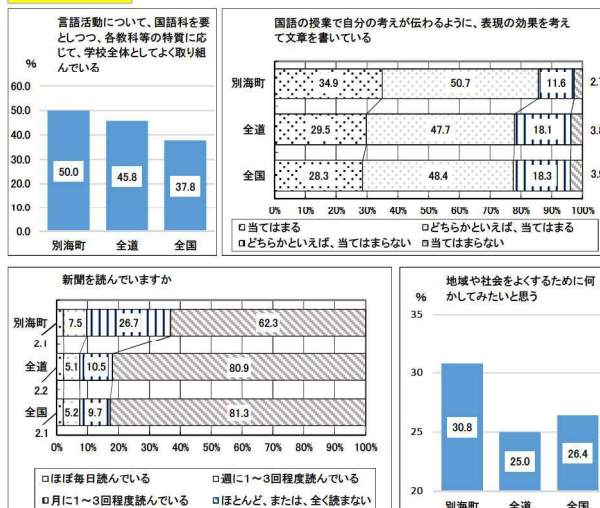


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考え、読むことができるような指導をしたことにより、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語を具体的にイメージし、どのような表現で書かれているのかに着目していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

新聞を活用した教育活動に取り組んだり、「ふるさとキャリア教育」を充実させたりしたことにより、新聞を読んでいると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったとともに、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

言語活動について、国語科を要として、各教科の特質に応じて、学校全体でよく取り組んだことにより、国語の授業で自分の考えが伝わるように、表現の効果を考え、文章を書いていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

新聞を活用した教育活動に取り組んだり、「ふるさとキャリア教育」を充実させたりしたことにより、新聞を読んでいると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったとともに、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【別海町の学力向上策】

- ◎ 新聞を活用した教育活動や読書活動の推進など、総合的な読解力向上に向けた取組の推進
- ◎ 「コミュニティ・スクール」の取組の充実及び「ふるさとキャリア教育」の充実
- ◎ プログラミング教育や遠隔授業の推進等、「別海版GIGAスクール構想」の充実

【Webページ】



(R6.10掲載)

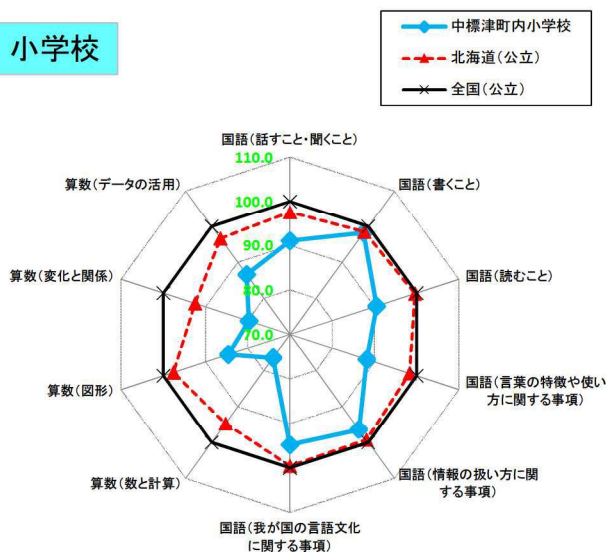
■中標津町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:198人）（中学校数:3校、生徒数:165人）

【教科全体の状況】

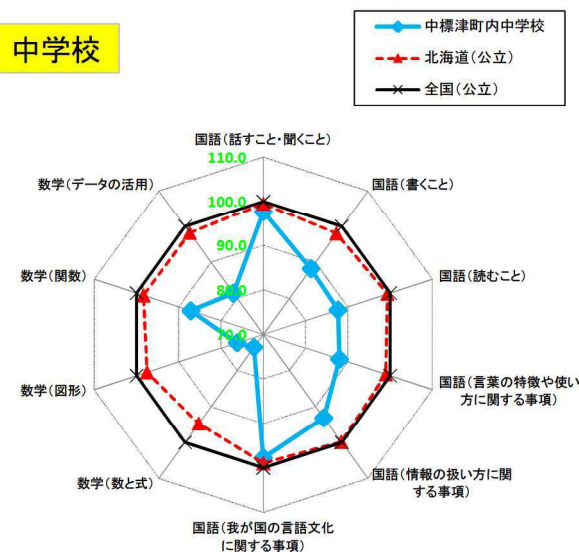
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	53
算数・数学	52	42

小学校

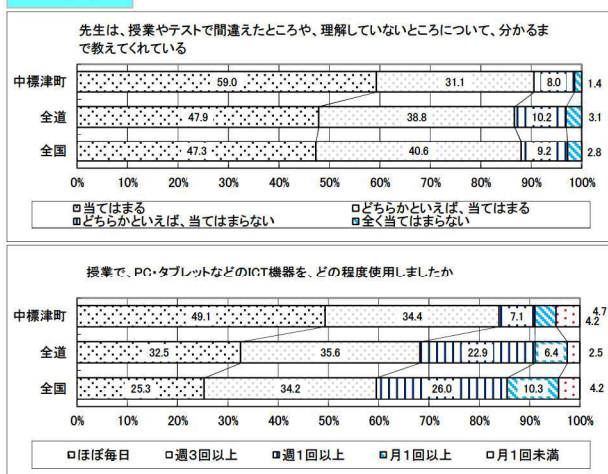


中学校

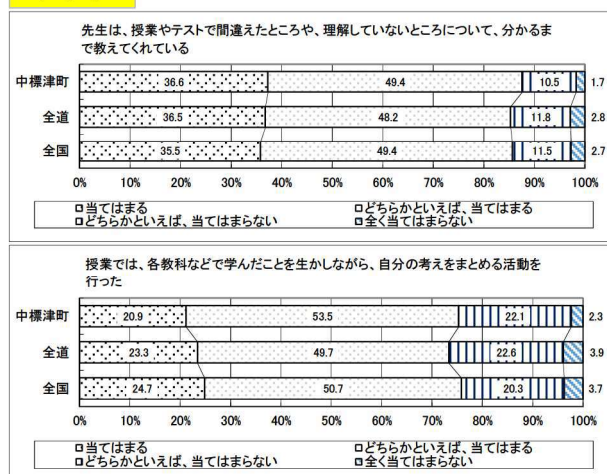


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

小・中学校の接続を重視した9年間の系統的な教育活動を推進するとともに、「中標津町学校改善支援プラン」に基づく授業改善に取り組んだことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

1人1台端末を活用し、各教科等の特質に応じて、学習の習熟度に合わせた発展的な学習や、児童同士で学び合う学習に取り組んだことにより、授業でPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日活用したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

小・中学校の接続を重視した9年間の系統的な教育活動を推進するとともに、「中標津町学校改善支援プラン」に基づく授業改善に取り組んだことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

1人1台端末を活用し、各教科等の特質に応じて、学習の習熟度に合わせた発展的な学習や、生徒同士で学び合う学習に取り組んだことにより、授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ったと肯定的に回答した生徒の割合が全道を上回ったと考えられる。

【中標津町の学力向上策】

- ◎ 各学園の「教育目標」の実現に向けた小・中学校の接続を重視した9年間の系統的な教育活動の推進
- ◎ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「中標津町学校改善支援プラン」に基づく授業改善の推進
- ◎ ICT機器を活用した学習の習熟度に合わせた発展的な学習や子ども同士で学び合う学習の充実

【Webページ】



（R7.1掲載予定）

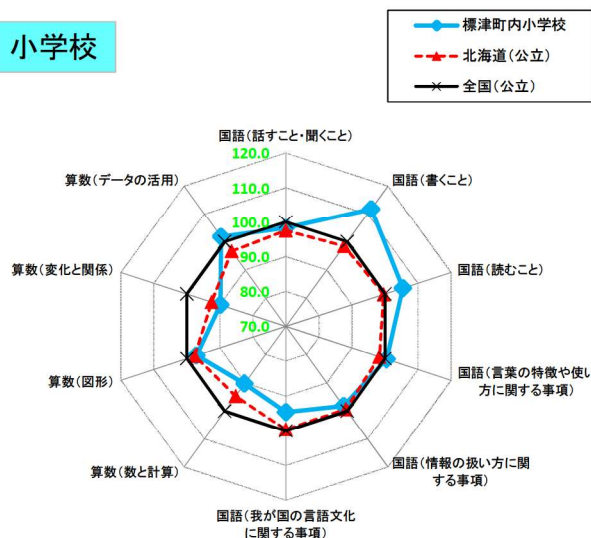
■標津町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:34人）（中学校数:2校、生徒数:42人）

【教科全体の状況】

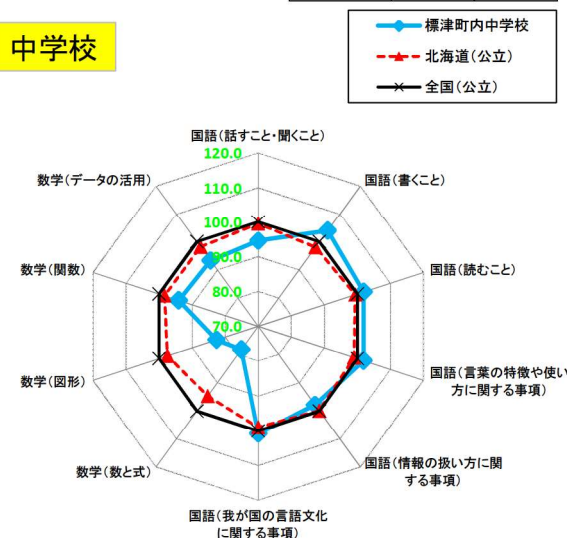
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	58
算数・数学	59	46

小学校

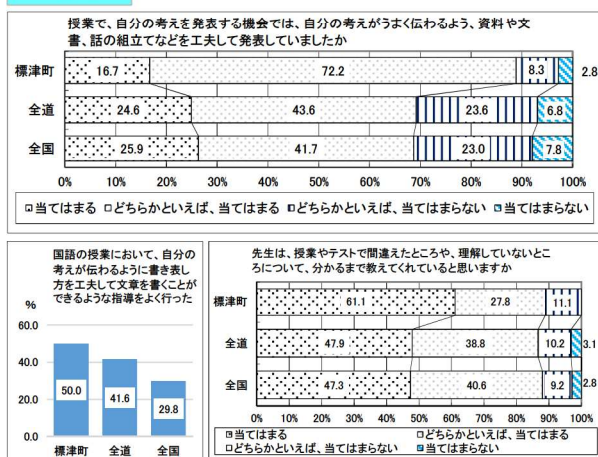


中学校

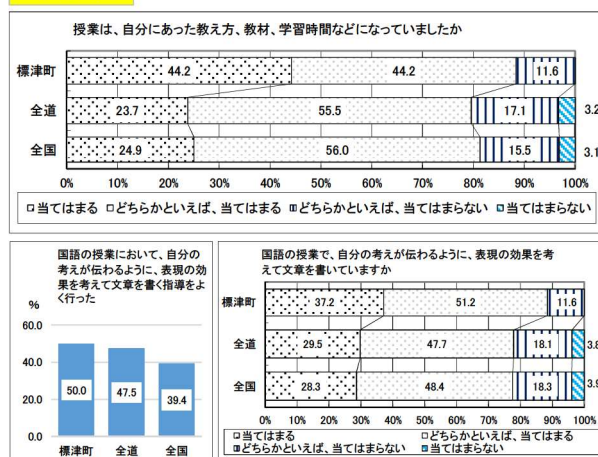


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

1人1台端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る「標準型学習スタイル」による授業改革に取り組んだことにより、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文書、話の組立てなどを工夫して発表したと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

国語の授業で、目的や意図に応じて簡単に書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くことができるような指導をよく行ったことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。標津町: 61.1, 27.8, 11.1, 3.1。全道: 47.9, 38.8, 10.2, 3.1。全国: 47.3, 40.6, 9.2, 2.8。

中学校

1人1台端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る「標準型学習スタイル」による授業改革に取り組んだことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導をよく行ったことにより、国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【標津町の学力向上策】

- ◎ ICT機器を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る「標準型学習スタイル」による授業改革の推進
- ◎ ICT活用に係る教員研修の充実やICT支援員の配置など、教育DXの推進
- ◎ 知・徳・体を一体的に育成する、総合的な教育課程の編成の推進

【Webページ】



(R6.10掲載)

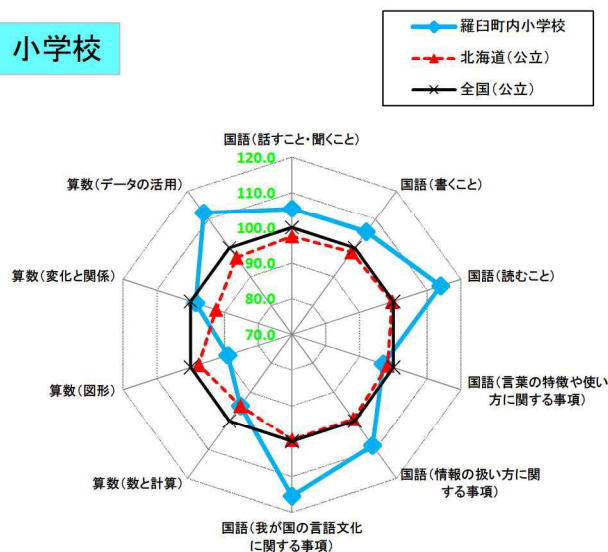
■ 羅臼町内の状況及び学力向上策 （小学校数:2校、児童数:36人）（中学校数:1校、生徒数:24人）

【教科全体の状況】

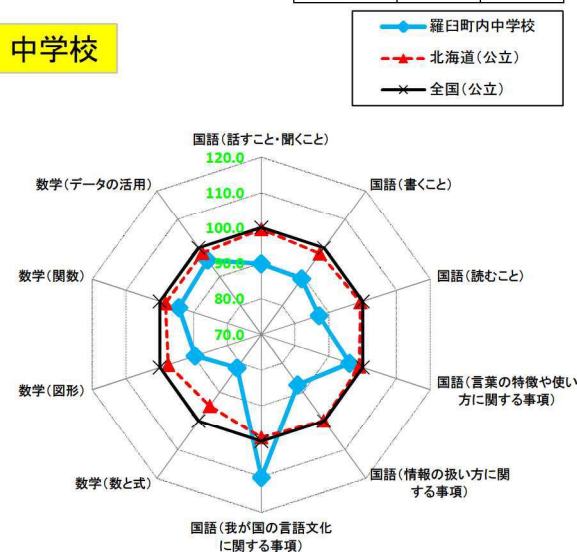
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	72	53
算数・数学	62	47

小学校

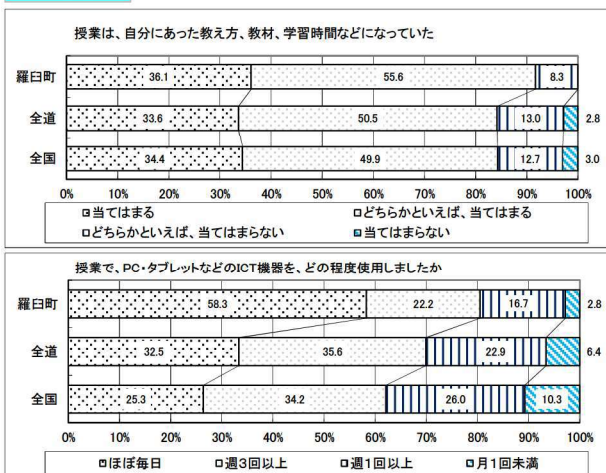


中学校

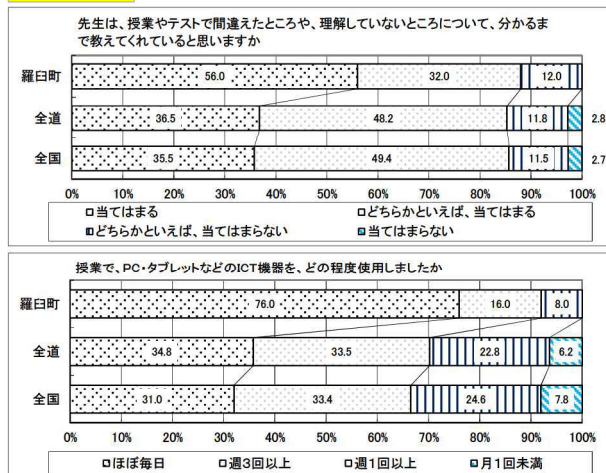


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

確かな学力の定着に向けて、幼小中高で一貫した授業改善に取り組み、個に応じた学習の充実を図ったことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

ICTの特性を生かした指導方法の工夫改善に向けた研修会を小中が連携して実施し、教員が授業改善に取り組んだことにより、授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

確かな学力の定着に向けて、幼小中高で一貫した授業改善に取り組み、個に応じた学習の充実を図ったことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

ICTの特性を生かした指導方法の工夫改善に向けた研修会を小中が連携して実施し、教員が授業改善に取り組んだことにより、授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【羅臼町の学力向上策】

- ◎ 「幼小中高合同研修会」による幼小中高で研究主題を統一した一貫して取り組む授業改善の実施
- ◎ 情報リテラシー能力の育成に向けたICT機器の活用の促進
- ◎ 小・中学校の教員を対象とした、道立教育研究所等と連携した授業改善に向けた研修会の実施

【Webページ】

